(C)十勝毎日新聞社

帯大谷 決勝へ

帯工に3―0 田中が完封

【準決勝・帯大谷―帯工】力投する帯大谷の先発・田中大輔投手

春季 高校野球 十勝支部予選

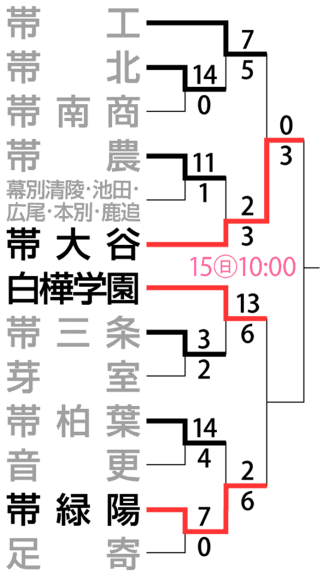
第5日は14日、帯広の森野球場で準決勝を行った。降雨の影響で1時間遅れの午前10時に始まった第1試合は、帯大谷が初回から好機に着実に加点し、先発の田中大輔（3年）が完投、3―0で帯工に完封勝利した。帯大谷は頂点に立った2019年以来の決勝進出を決めた。15日に3年ぶり3度目の代表権を懸けて白樺学園―帯緑陽の勝者と戦う。（岡部彰広、新井拓海、金野和彦）

◇準決勝

帯工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帯大谷	1	0	0	1	0	1	0	0	×									3

【工】瀧上、市岡―深田
【大】田中―玉田
▽二塁打＝大澤（工）火ノ川（大）

帯大谷は初回2死走者なしから火ノ川が四球と二盗、暴投で三進し、田中の中前打で生還し先制。二、三回の得点機は逸するも、四回は左前打の玉田が犠打と内野ゴロで三進し、岡山のバント安打で生還、2―0とした。六回には敵失から池上の適時右前打と着実に点を重ねた。

右腕エース田中は、右打者の内角を突きながら打たせて取る投球。帯工に三塁を踏ませなかった。

帯工はバッテリーミスや守備の乱れが失点につながった。攻撃も六回の内野手強襲の二塁打など得点機は三度のみ。そのうち二度は2死無走者からと、攻撃の幅を広げて戦えなかった。